

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	0470500315
法人名	社会福祉法人 キングス・ガーデン宮城
事業所名	星谷ランチ
所在地 (電話番号)	宮城県気仙沼市字岩月星谷16-3 (電話) 0226-26-1320
評価機関名	特定非営利活動法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 21 年 1 月 22 日

## 【情報提供票より】(平成20年12月28日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 2 月 28 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 7 人	

### (2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	○新築/改築
建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷 金	○有( 20,000 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) ○無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	500 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要(12月28日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2		2 名	
要介護3	4 名	要介護4		2 名	
要介護5	0 名	要支援2		0 名	
年齢	平均 84 歳	最低	76 歳	最高	97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	村岡外科クリニック
---------	-----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

45号線を北上し、気仙沼市最知を過ぎると「気仙沼生鮮館やましろ」がある。道路を挟んでその斜向かいに「星谷ランチ」はある。主体の「キングス・ガーデン宮城」は各種の在宅支援やケアハウス、特別養護老人ホームを運営しており、当ホームはそのひとつである。今回の評価にあたって事前にお願した御家族からのアンケートの回収がいただけなかったことは残念であった。管理者は宮城県がモデル事業の「認知症地域支援体制構築等推進事業」のコーディネーターの委嘱を受けており、認知症に関する研修やネットワークづくりなど社会的視野に立った活動をしている。職員は「入居者の笑顔が仕事のやりがいです」と言い、入居者のしたいこと、したくないことを尊重して入居者本意の生活を支えていきたいと語った。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の改善課題となったのは①改善計画による改善の実施②運営推進会議の開催③ホーム便りの発行④相談苦情窓口の掲載⑤介護計画の定期見直し⑥終末期指針の意思確認⑦避難訓練の実施であった。④と⑥については改善がみられた。その他については今回も課題として残った。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>ミーティングの機会を利用し、自己評価票の項目について各職員の意見を聞き取り、管理者がまとめ記入した。職員の感想として「初心に帰らねばと気づいた」「入居者の思いを知るためにコミュニケーションが大事と感じた」などを聞いた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>前回の評価でも改善課題であった運営推進会議の開催であるが、残念ながら開催されなかった。職員は日夜懸命により良いケアのあり方を模索していることと思うが、事業所はもとより関係者が、モニターであったり運営の協力者であることの意義は大きい。その関係者こそが運営推進会議のメンバーであると認識願いたい。地域に開かれたサービスとして質の確保、向上につながる取り組みをしていただきたい。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の意見、苦情等は家族が来所した折りをみて、様子をうかがって声をかけるなどして聞き出すように努めている。意見として表に出難い思いも相手の立場にたって汲み取るよう配慮している。毎月の請求書にあわせて入居者の健康管理表を送付しているが、ホームでの生活や外出状況、行事などの報告はされていない。今後、取り組むとしていたので期待したい。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会への加入はなく、行事についても昨年は参加していないが、近所の人が「お茶飲み」に来る。系列の特別養護老人ホームに慰問が来たときは入居者と一緒に参加する。隣地の幼稚園からは運動会などの案内をもらっている。地区の2つの中学校から福祉体験や職場体験の受け入れを行なっている。今後、認知症などに関して相談を受けるようなしくみを考えている。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所のパンフレットには「やすらぎの中で」「その人らしく」「いつまでも社会の中に」をうたい、ほかに職員みんなで考えた「暮らし楽しくこころ豊かに」をモットーとして施設内に掲げている。年度のはじめに検討されたものである。地域密着の表現については来年の見直し時に盛り込みたいとしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	モットーを施設内に掲示することで常に目にしている。入浴やトイレの誘導はなにげなく行い、入居者本人の選択による意思決定を大切に行動をしている。ミーティングや引継ぎ時にそのための環境づくりについて話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会への加入はしていないが近所の人がお茶飲みを訪れ入居者と友人関係を築いた人もいる。系列の特別養護老人ホームに演芸ボランティアが慰問した機会と一緒に参加したり、2つの中学校から福祉体験と職場体験を受け入れた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価で「改善計画書の作成とそれに基づく改善の実施」の改善課題については充分ではなかった。しかし今回の自己評価票の記入にあたり、聞き取りが契機となって職員の「気づき」を引き出すことになった。評価の意義について理解し日々のケアに活かされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年に引き続いて「運営推進会議」は開催されなかった。メンバーは保健推進員、地域住民、家族、在宅介護支援センター職員、市職員の計7名で構成されている。	○	より良いケアをめざして励んでいる事はよく理解できるが、足元に気を取られて全体が見えなくなる懸念もある。運営推進会議には、事業所・職員にとって自己評価の補完やモニターとして改善点を気づかせてくれる重要な役割も期待できる。会議の開催時に本評価の結果を報告し、意見をもらうことから始められるようにしていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は宮城県が行なうモデル事業のコーディネーターをしていることもあり、市の担当課との行き来は頻繁におこなわれている。入居者の各申請事項や運営について相談する機会も多い。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時、必要に応じて入居者の様子などを話すようにしている。金銭管理や職員の異動についても同様である。月に一度、請求書と入居者のバイタルチェックなどを記録した健康管理表を郵送にて報告する。ホームの行事や入居者の外出状況、暮らしぶりについて個々にあわせた報告は行っていない。	○	前回は課題であった。家族の安心と信頼関係づくりのために積極的な報告が求められる。家族の状況に配慮しながら、入居者はどんな時に笑顔だったか、お気に入りの過ごし方はどうかなど個々の暮らしぶりを毎月報告するようになりたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	これまで相談・苦情はなかった。ほとんどの入居者は地元で、家族の訪問が頻繁であり、その折に聞くようにしている。苦情として表出されないまでも会話の中から「声にならない苦情」を感じ取り、受け止めて対処している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での定期異動がある。異動の際には、職員と入居者の親密度を見計らい対応を工夫している。入居者が受け入れ易いように新職員は顔を覚えてもらうことから始め、段階的に勤務体制を変えるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の専門部会が実施する研修に参加している。受講した職員はミーティングの機会を利用して情報の共有を行なう。感染症対策の研修を活かして、マスクの備蓄や湿度管理を工夫したり、緊急事故対策の研修からは餅の食べ方や大きさ硬さについて話し合いケアに活かした。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護福祉法人連絡会に参加している。組織化されていないが気仙沼市のグループホームが集まって年に2回の交流会をしている。唐桑地区のグループホームと繋がりをもち、他施設を見学し良い刺激になった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居については従前のサービス担当者から情報を得て個別に調整を行なっている。調査訪問後も数回の訪問をして本人との関係を築き、会話などから納得された様子を確認してから入居してもらっている。入居後は1ヶ月ほどを馴染まれたかの判断期間としている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	コーラスをしていた入居者はみんなで歌うようリードしてくれたり、正月飾りの生花や魚さばきを自分の仕事にするなど職員が助けられる場面が多い。男性職員は入居者から調理を教えてもらってできるようになった。お互いが協働しながら生活している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の会話の中から思いを受け止め、顔色や表情などからも意向を汲み取るようにしている。入居者が発言しなくても、職員側で気になることがあればミーティングで話し合う。それらは必要に応じて介護計画の長期目標に活かされる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントや従前のサービス担当者の意見、かかりつけ医の意見、家族の思いなどを反映させるように努め、介護計画に盛り込んでいる。計画の策定は入居者本位であることが大切と考えている。計画書は家族に手渡ししている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の変化にあわせ必要に応じて随時見直している。定期では6ヶ月に一度を目途に見直すようにしたいとしている。介護計画の中に遂行状況・評価・見直しの欄を設けることで自然な流れで見直すことが容易になると考えられる。尚、見直し検討は3ヶ月に一度くらいしていただきたい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族との通院、外泊、外出など入居者や家族の要望に柔軟に対応している。馴染みの理容室を呼んだり、チラシでみつけたイベントに出かけるなど一人ひとりのニーズにあわせた対応に努めている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を受診している。受診の結果については家族から口頭で報告を受ける。ケアに関わると判断される場合は職員が同行することもある。尚、受診結果について医師の助言や処方についての伝達方法は記録による情報の共有が望ましい。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の方針を作成し、家族、医師、職員が話し合っている。ホームが対応できるケアについて、状況の変化に応じた説明を行ない家族の理解を得ている。あわせて「意思の確認書」に署名捺印をもらっている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報人目につかない場所に管理している。人生の先輩として名前は「さん」を付けて呼んでいる。言葉をかけるときは視線をあわせてゆっくりと話すように努めている。居室の出入りは本人に断ってから入るなど尊厳を守るように配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、入浴、食事など時間を制限することなく、入居者のペースにあわせた過ごし方になっている。ホームでのおおまかなスケジュールはあるが引継ぎ表で情報の共有をし、入居者にあわせた柔軟な対応をしている。入居者の気分で馴染みの理容師を呼ぶこともある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みに配慮しながら職員がメニューを考える。季節の料理などは入居者に相談して教えてもらうこともある。食材の買出しは毎日行っており、希望する入居者が同行する。盛り付けや配膳を一緒にしたり、さりげないサポートをしていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望に応じていつでも入浴することができるようになっている。入浴剤を使用したり季節によって「菖蒲湯」「柚子湯」で楽しんでいる。入浴しながら入居者には声かけを工夫して、入りたいときにはすぐに入浴できる体制をとっている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴を活かした調理や魚さばき、洗濯物たたみなどを積極的にしてもらっている。みんなでおやつを作ったり、「まゆだまづくり」など季節行事の飾り物を作るなど入居者に教えてもらいながら楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買い物や散歩を毎日行っている。買物に同行をする入居者は希望する方だけになっている。足元に不安のある入居者の外出についても車椅子を使用するなどして、戸外での活動を考えたいとしているので期待したい。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠していない。職員は入居者の外出傾向を把握しており、入居者の言葉、表情などで気配を察することができるので、気分を変えるような話掛けをして対応している。近隣の住民と顔馴染みなので見守りの協力が得られている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	少し離れたところに所在する系列の特別養護老人ホームが実施する災害訓練に職員が参加し、ホームでの災害時対応についてミーティングで話し合った。今後消防設備や防火管理者の選任を考えている。災害対策に関する訓練は行なわなかった。	○	前回は課題であった。災害はいつでも起こりうることを踏まえて、一人ひとりの入居者の状態を考慮し、昼夜を通じた災害時の具体的な避難策について準備することが重要である。マニュアルを作成し、役割の分担など明確にすることから始められたい。消防署・町内会などの協力を得て、定期的な訓練実施の検討をしていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスについては法人の栄養士に見てもらっている。バイタルチェックのほか、水分量、食事量、排泄、入浴、服薬、体重をチェックシートに記録して健康管理に役立てている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂の天窓からは優しい光が注いでいる。時計やカレンダーは見やすい高さに掛けるなど配慮されている。各居室には大きく書かれた表札があり判別しやすい。加湿器を置き、室温は適度に保たれている。入居者の手による季節の生け花が室内を和ませていた。オープンキッチンからは食事の支度のいい匂いが漂っていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	たんす、こたつ、椅子、ベッドなど入居前から使い慣れた馴染みのものを置いている。居室への持ち込みが制限されることなく、冷蔵庫、位牌、写真など多彩で個性的な部屋になっている。		